天童

土田耕平

青空文庫

はげしい雨風の夜であります。山小屋の爺は、早く雨戸を立てゝ藁布団の中へもぐりこみました。枕もとには、うす暗い置ランプがともつてゐます。時をり戸のすき間から風が吹きこんで来て、ランプの灯はゆら〳〵と動きます。爺は寝床の中から細い象のやうな目つきで、危なく消えようとするあかりを眺めてゐました。

「もう消えてもいゝよ。」

と爺はつぶやきました。けれど、あかりは消えさうに見えてなか〳〵消えません。

ザワ〳〵ザワ〳〵と、山の木立は波が立ちさわぐやうな音をつゞけてゐます。風が強くなつて来ると、その音がゴオーと一色に集つて、滝でも落ちて来るやうに聞えます。このはげしい雨風の夜に、人里はなれた山の中に、たゞ一人きりでゐる爺の姿は、丁度風にゆらめくランプの灯のやうにたよりなく見えました。しかし爺の心は、外の物音とは打つて変つて静かにおちついてゐました。もう四十年あまり住みなれたこの山小屋は、爺にとつては、世界のどんな立派な御殿にも勝つて貴い新しいものでありました。

けれども爺は、今夜はなか〳〵眠れませんでした。目をとぢて雨風の音に聞き入つてゐますと、ゴオーと吹きよせる音は、火吹だるまが怒り出したやうにも聞えますし、また韋駄天が走つて来るやうにも思はれます。と忽ち、爺の目には韋駄天の姿があり〳〵と見えて来るのでした。韋駄天は毬栗頭で赤金色の顔で、目は恐ろしく吊りあがつて、手にはピカ〳〵光る剣を持つてゐました。しかしこれは人を殺めるものではなく、仏さまの守護神であることを爺は知つてゐますので、ちつとも恐いとは思ひませんでした。韋駄天はのはてからどし〳〵駈けてきて、爺の目のまへにぴつたり立ちふさがりました。爺はとぢてゐた目を一寸ばかり開いて見ました。と、韋駄天の姿は消えてしまつて、枕もとの置ランプが相変らずゆらゆらとしてゐるのでした。爺の頬にはやさしい笑みが浮びました。そしてまた両の目をしづかにつぶりました。

ゴオーと雨風の音がはげしくなつて、再び韋駄天の姿が見えて来ました。韋駄天はどし〳〵駈けてきて、爺のまへに立ちはだかりました。爺は今度は目をあきませんでした。かまはず韋駄天と向きあつてゐますと、韋駄天とばかり思つてゐましたのが、いつの間にかうつくしい女の姿に変つてゐました。ハテな、とよく見ますと、それは女ではなくて観音さまでした。爺は目をあきました。観音さまの姿は消えました。そして枕もとの置ランプが相変らずゆら〳〵としてゐました。

「もう消えてもいいよ。」

と爺はつぶやきました。しかし、あかりは消えさうに見えてなか〳〵消えませんでした。

爺はまた目をとぢました。しばらくたつと、ゴオーと雨風の音がはげしくなりましたので、また韋駄天が見えて来るかな、それとも観音さまかな、と思つてゐますと、こんどは、びんづらを結うた可愛らしい男の子があらはれました。男の子は遠くの空からむらさきの雲に乗つてきました。爺のまへへ来ると雲からとびおりて、身がるくそこらを駈けまはる様子が世間の子どもとは全く変つてゐますので、よく見ますと、男の子の背にはうつくしい羽が生えてゐました。それは天童でした。爺は安心しました。そしてもう目をあかうとはしませんでした。天童が舞ひあるくたびに、あたゝかいやはら

かい羽風が、爺の顔や髯にさはるのを感じました。

爺がこの山小屋へ住みこんだ時は、まだ二十あまりの若者でした。それが今はもう六十の坂をこえた白髪のお爺さんになりました。その長い間、爺は薪を伐つたり炭焼をしたりして、たゞ山を相手に暮してしまひました。妻も子もなく全くの一人ぼつちでした。人里遠く離れてゐますので、親しく行き来する人もありませんでした。

この爺にとつて、今までにたつた一人仲のよいお友だちがありました。それは草苅の少年でした。少年は毎日山小屋の近くへ草苅に来ました。そしてお昼のべんたうは、山小屋の炉で爺と一緒に食べました。爺はじぶんの子か孫のやうにして、この少年を可愛がりました。ところが、不幸なことに、少年は流行病のために急に亡くなつてしまひました。それは今から五年ほど前のことです。爺は忽ち年をとつて、腰はまがり髯は白くなりました。もう誰もお友だちはありませんでした。爺は観音さまを信仰して、亡くなつた少年——たつた一人のお友だちが、立派な天童になるやうにと朝に夕にお祈りをしました。そして、やがて自分も死んだ時、天童と一しよに観音さまの傍へ行きたいと思ひました。

爺は今夜はあり〳〵と観音さまを拝み、天童の姿をも見ましたので、すつかり安心しました。目がさめた時は、朝日の光が戸の隙からさしこんで、あらしは凪ぎてゐました。谷川の音がしづかに耳にきこえました。爺はゆうべ消し忘れた枕もとの置ランプを見ますと、いつの間にか灯は消えてゐました。爺は手をのばして、ランプ壺を揺つて見ました。ランプは油が燃え尽きてしまつたので、あらしのために吹き消されたのではありませんでした。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第九巻」ほるぷ出版
　　1977（昭和52）年11月20日初刷発行
底本の親本：「蓮の実」古今書院
　　1926（大正15）年10月
初出：「童話」コドモ社
　　1923（大正13）年9月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年7月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

天童

土田耕平

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/